

## 終業式での「校長講話★R80物語」の前編です。

3月22日(金)、平成30年度の終業式を体育館で行いました。今号と次号(第418号)で「校長講話」の全文を掲載します。2220字・約10分間の講話です。講話のタイトルは「R80物語」です(\*^\_^\*)。

### ◆終業式での「校長講話」—前編—◆ タイトル:「R80物語」

- みなさん、こんにちは。本日の講話は、約10分間です。タイトルは「R80物語」です。
- 「学力向上につながらなければ、アクティブ・ラーニングは消えてしまうのではないか」。2016年春、桜を眺めながら校長室でこう考えていました。以下、アクティブ・ラーニングはALと表現します。
- もし、ALで学力が低下するようなら、どんなに未来の若者のために必要だと言っても、広く浸透しないだろうと思いました。一方、ALによって学力が向上するなら、全国にもっと広がるだろうと考えました。
- そのために、2016年5月、私は「R80」を考案しました。「R80」の基本構造を改めてお話しします。「R80」のRは「リフレクション(振り返り)」と「リストラクチャー(再構築)」のRです。80は、80字以内の文章を書くという意味の80です。たとえば、ALの最後に「振り返り」として、ペアワークやグループワークで話し合ったことなどを「再構築」して80字以内で書くというものです。知っていますね。
- その際、必ず2文で書き、その2文を接続詞で結ぶのがR80最大の特徴です。そのことによって、学力の3要素の一つである「思考力・判断力・表現力」とともに、「論理力」を育成し、学力向上につなげようと考えました。ここでいう「論理力」とは、「相手の主張の筋道を読み解き、自分の考えを整理して伝える力」です。これは、現代文のカリスマ出口汪(でくちひろし)氏の定義です。
- 今日は、「なぜ80字なのか」というR80最大の秘密について話します。私は、かつて高校の日本史の教科書を書いていました。その時、編集長に「主語・述語を書き、一通りにしか読めない文章を書いてください。」「長い文章はダメです。理想は1文50字前後です。」と言われました。
- 50字×2文だと100字になりますが、3ケタだと多いと感じると思いました。90字は語呂が悪い。80字は、文字数的にも、デザイン的にもベストだと考えました。そして、「あーるはちじゅう」ではなく、「アールエイティー」という軽やかな読みにしました。このような特殊アイテムには、コピーライターの的なネーミングやデザインセンスも大切だと考えています。そして、昨年知ったのですが、放送関係の方から「R80は理にかなっていません。放送原稿は1文40字が基本です。」と言われました。
- 「R80」を考案した2016年5月当時、2年次生が本校には在籍していました。現在の4年次生、つまり新テスト第一世代の皆さんです。そのため、2年後に大学入試センター試験にかかわって始まる「大学入学共通テスト」の記述式問題にも、早くから対応すべきだと考えていました。
- そして、驚くべきことが起こりました。(次号に続く)

R80 (リフレクション)	
項目	内容
読書	
授業	
発表	
その他	

### 中島考案「R80」

- 読みは「アールエイティー」
- 「リフレクション(振り返り)」と「リストラクチャー(再構築)」のR
- ALの最後にリストラクチャーして各自が80字以内で書く
- 2文(2センテンス)で書く。2文を接続詞で結ぶ。

●目的は、思考力・判断力・表現力、論理力の育成  
→ 学力向上

●そして、「大学入学共通テスト」の記述式問題への対応

